

令和7年度 兵庫県立農業大学校評価シート

[教育目標]

国際化する農業に対応するとともに、地域社会の多様化等、変化の激しい農業に対応する幅広い知識、高度な農業技術及び経営管理能力を修得させ、地域社会の有為な形成者となる意欲的な農業の担い手と地域農業を牽引する指導者を養成する。

[重点目標]

- I 次代の農業を担う意欲の高い学生の確保
- II 実践的教育の充実・強化による学生の資質向上
- III 就農率の向上に向けた学生指導の充実

[達成度の基準]

- A 目標を上回っている
- B 目標どおりに進捗している
- C 目標を下回っている

I 重点目標：次代の農業を担う意欲の高い学生の確保

現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	今後の取り組み・課題と改善策	学校評議会委員の意見	達成度																												
<p>1 定員 40 名に対し直近 2 年間の競争率は 1.2 倍。近年、大学は選ばなければ誰でも入学できる状況にあり、今後、専修学校である本校では、定員の確保がさらに厳しくなると予測される。(入試受験者 R6:48 名、R7:51 名)</p> <p>2 入学者は 36.6 名で定員充足率は 91.5%。(R2~6 年度平均)</p> <p>3 農業高校からの入学者は 62.8%、実数 23.0 名。(R2~6 年度平均)</p>	<p>高校・関係機関等との連携協力</p>	<p>1 以下により高校の進路指導担当者等へ大学校の情報を提供</p> <p>① 農業高校：県内は、高等学校教育研究会農林水産部会などを通じて。また、県外は隣接府県高校へのガイダンスを通じて。</p> <p>② 普通科高校等：高校進路指導研究会（以下「進指研」）</p> <p>③ 特に地元（北播地域）での知名度向上</p> <p>2 農高生のつどい等の場で農大生が高校生へ魅力を伝達</p> <p>3 農業高校教員と農大教職員との交流推進</p> <p>【評価指標】</p> <p>1 大学校情報の提供</p> <p>① 県内外の農業高校への説明：10 校</p> <p>② 森林大学校との連携強化による情報発信</p> <p>② 播磨農業高校での模擬授業実施等</p> <p>2 高校出身者を引率しての大会参加</p> <p>3 教職員交流の実施</p>	<p>1 高校の進路指導担当者等へ大学校の情報を提供</p> <p>① 農業系高校：新たに上郡高校へも情報提供した。</p> <p>② 普通科高校等：進指研では、新たに西播支部に参加。西播・丹有支部では森林大学校とセットでプレゼン。進路ガイダンスは、府立吹田東や市川高校に参加。</p> <p>③ 播磨農業高校で模擬授業を実施</p> <p>トライやるウィーク受け入れ 10 名（加西中学、社中学、滝野中学）</p> <p>【実績】</p> <p>1 大学校情報の提供</p> <p>① 農業高校等への説明（進路ガイダンス）：7 校 14 回延べ 216 名</p> <p>県農、佐用高校は高校出身者を引率して参加。県農・有高・佐用高校の見学受入</p> <p>② 普通科高校への説明（進路ガイダンス）：6 校 45 名</p> <p>進指研で説明：2 支部（丹有支部、6/30 西播支部。37 校の進路指導者が参加）</p> <p>2 農高生のつどいに参加（11/6）</p> <p>3 県立総合教育センターと連携して農業技術習得研修を実施：8/4、7 名参加</p> <p>* 入試結果（合格者数/受験者数）：40 名/55 名、昨年度（44 名/55 名）に引き続き受験者数が定員を上回った。</p>	<p>1 受験生に選んでもらえる大学校となるために、大学校の情報を発信</p> <p>(1) 高校の進路指導担当者への情報発信</p> <p>ア 農業高校：高等学校教育研究会農林水産部会などを通じて</p> <p>イ 普通科高校等：進指研を通じて</p> <p>ウ 映像を活用した情報の提供</p> <p>(2) 生徒への情報発信</p> <p>例年の開催校のほか、新規要望高校の進路ガイダンスに積極的に出席（隣接府県を含む）</p>	<p>在校生が母校の高校を訪問し、進路指導担当教諭に農大の魅力伝えることが最も効果的。進路ガイダンスには、可能な限り学生を同行するとともに、収穫祭のお知らせ等を啓発すること。農業高校とさらに連携を強め、5 年間で体系的に学べるように検討すること。</p>	A																												
<p>4 推薦入試による入学者実数は 24.8 名で 67.8%。(R2~6 年度平均)</p> <p>5 オープンキャンパス参加者は 80.6 名（R2~6 年度平均、募集人員：R3 のみコロナで 60 名に制限。その他は 80 名）</p>	<p>大学の PR</p>	<p>1 進指研を通じた普通科高校等への進路ガイダンスを強化</p> <p>2 農業大学校の特色が、より理解しやすいため、映像等を活用した PR。著名な OB・OG の紹介。</p> <p>3 収穫祭での入試相談コーナーの設置</p> <p>【評価指標】</p> <p>1-1 進指研での説明・PR（再掲）</p> <p>1-2 県内外の進路ガイダンス（延べ 15 校）</p> <p>3 収穫祭で受験相談コーナーの設置</p>	<p>1 進指研では新たに西播支部で進路ガイダンスを実施【再掲】</p> <p>2 進指研、進路ガイダンス、オープンキャンパスでは、生徒、進路担当者、保護者に対して HP に掲載の学校紹介映像を用いて特色を PR した。</p> <p>藤本元副知事、弓削忠夫氏、村田瑞樹氏等著名な OB・OG を紹介。</p> <p>3 新たに収穫祭で入試相談コーナーを設置して、受験希望者、保護者の相談に応じた（11/15・16:5 名（うち生徒 3 名））。</p> <p>【実績】</p> <p>1-1 進指研での説明・PR：6 地域（再掲）</p> <p>1-2 進路ガイダンス：延べ 13 校（再掲）</p> <p>2 進指研、進路ガイダンス、オープンキャンパス、入試相談コーナーの設置【再掲】</p>	<p>1 受験生に選んでもらえる大学校となるため、大学校の魅力を PR</p> <p>(1) 農大の特色の PR</p> <p>特色：実践学習、資格取得、農家等派遣実習、インターンシップ、4 年制大学編入、就職状況、経費</p> <p>(2) 進指研、進路ガイダンス、オープンキャンパス、収穫祭等で映像を活用した魅力の発信</p> <p>(3) 収穫祭での入試相談コーナー</p>	<p>より広く、有名な OB・OG の紹介に努めること。</p>	A																												
	<p>ホームページによる情報発信の強化</p>	<p>1 学生によるトピックス・農大情報の積極的な発信</p> <p>2 タイムリーな入試情報等の発信</p> <p>【評価指標】</p> <p>1・2 トピックス発信、卒業生の就職状況、過去の問題等の掲載（50 回以上）</p>	<p>1 学生によるトピックスでの情報発信【実績】</p> <table border="1"> <tr> <td>月</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>発信数</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>19</td> <td>1</td> <td>53</td> </tr> </table> <p>*トピックスを 53 件発信、うち学生によるものは 45 件</p> <p>2 お知らせ他【実績】：トピックスのほか卒業生の就職状況、過去の問題等を掲載インスタの開設</p>	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	発信数	1	3	5	3	2	5	3	3	1	7	19	1	53	<p>1 トピックス・お知らせ等でのタイムリーな情報の提供</p> <p>2 学生による情報発信</p> <p>3 SNS による発信強化</p>	<p>地味な情報でもいいからできるだけ頻繁にトピックスやインスタに載せること。農大 HP から SNS にも連携させること。</p>	B
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計																					
発信数	1	3	5	3	2	5	3	3	1	7	19	1	53																					
	<p>オープンキャンパス等での PR</p>	<p>1 オープンキャンパスを 3 回開催（8 月：2 回、3 月*：1 回、*R9 年度入学予定者を対象）</p> <p>2 個別見学の受け入れ</p> <p>3 農業系高校の学年単位での見学受け入れ</p> <p>【評価指標】</p> <p>1 オープンキャンパス参加者：定員 95%以上</p> <p>2 個別見学の受け入れ：適宜</p> <p>3 農業系高校の学年単位での見学受け入れ：適宜</p>	<p>【実績】</p> <p>1 オープンキャンパスを 3 回開催（夏 2 回、定員（80 名）の 90%、農大希望割合：71%、3 回目は 3/24 実施（R9 年度入学予定者（新高校 3 年生及び既卒者）を対象。30 名参加）</p> <p>2 個別見学 1 回（学生 1 名）</p> <p>3 農業系高校の見学（有馬 2 年、佐用 1 年、県農 1 年）計 3 校、101 名参加。</p>	<p>1 オープンキャンパス 3 回開催（8 月 2 回、3 月）</p> <p>2 見学受け入れ</p> <p>(1) 農業系高校（1・2 年対象、学科単位）</p> <p>(2) 個別（適宜）</p> <p>3 希望者に対するオンライン説明会の実施。</p>	<p>特になし</p>	A																												

Ⅲ 重点目標：就農率の向上に向けた学生指導の充実

現 状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議会委員の意見	達成度
1 農家出身学生は 21% (R3～7 年度平均) 2 農業法人等への雇用 就農は 38%、自営就農と あわせた就農率は 46% (R2～6 年度平均)	学生個々の 意向把握及 び就農活動 支援	1 個別の進路意向の把握及び進路決定後の継続的 支援 2 雇用就農先とのマッチング支援 3 施策・制度資金等を活用した就農活動支援 【評価指標】 1・2 就農率目標：50%、進路決定率：100% 3 就農準備資金の活用	1 個人面談(5月)での意向確認、その後インターンシップ支援、情報提供等を実施。 2 インターシップ事業を活用して 10 名のマッチングを支援。 3 進路内定者 34/35(97%)、就農予定者 11/36(31%、全員雇用就農)、県内 J A 等 23、未定 1 (就農準備等)。 4 就農準備資金は 受給者なし。 5 メンタル不調の学生へのフォロー方法を学ぶため、カウンセラーから教職員に 対し研修会の実施	1 学生の意向把握と早期のマッチ ング支援 2 就農準備資金対象者の懸案支援 就農状況報告書(年 2 回)で確 認し、農業改良普及センターと連携し て課題解決につなげる 3 カウンセリング制度導入検討	特になし	A
3 東海近畿ブロック農 業 大 学 校 平 均 就 農 率 44% と 同 レベル (R4～6 年度平均)	農家等派遣 実習の 1 年 次実施	1 円滑な派遣実習実施のための知識、技術の醸成 2 学生と受け入れ農家のマッチング実施 【評価指標】 1・2 農家等派遣実習単位取得：1 年生全員	1 1 年生対象の農家派遣実習は、全員が 40 日間実施した(8/29～10/3)。 2 (1) 普及センターを介して調査した受け入れ農家の条件と学生の意向をマッチング。 (2) 受け入れ農家や普及センター等も参加した派遣実習報告会を開催し、学生が学 習成果等についてパワーポイントを用いてプレゼンした(10/23)。	1 40 日間の実習を踏まえた各自 の知識・技術の向上と就農率の向 上	特になし	A
4 J A、農業関連産業 (農機具、種苗等)等を あわせた農業に関わる 進路選択者は 92%(R2～ 6 年度平均)	インターン シップ等による雇用就 農支援	1 農業法人説明会等への積極的な参加 2 雇用就農先とのマッチング促進 3 インターンシップ等への参加を促進 【評価指標】 1 農業法人説明会等への参加：2 回 2 インターンシップ実施学生 R6：10 名→R7：5 名 3 同窓会と連携したインターンシップ支援制度の 活用	1 農業法人の仕事説明会へ参加(5/27, 12/15 の 2 回、26 名)。 2 雇用就農先とのマッチング支援。 3 インターンシップの実施 (1) 5 名が(公社)ひょうご農林機構の「ひょうごの農トライアル事業」を活用。	1 農家等派遣実習のほか現場実習 の機会を実践するため、インター シップを推進 2 各種事業を活用したインターシ ップの実施	特になし	A
5 農業・農村への早期理 解促進のため、40 日間の 農家等派遣実習を 1 学年 で実施 (但し R3 年度は、緊急事 態宣言で 17 日間に短縮)	就農意欲を 向上させる カリキュラ ムの充実	1 農業参入企業等との連携によるカリキュラム実 施 2 雇用就農者や雇用就農後に独立した農業者の事 例研究 【評価指標】 1 農業法人での校外学習、県下市町が実施する就 農支援事業への参加 2 「現代実践農業」、「農政時事」等での農業者による講演	1 参入企業：イオンアグリ創造(株)社長の講演(7/2)と生産工程管理について の校外学習を実施(10/3)。 2 (1) 「農政時事」で米価や J A の先進事例などを学んだ(JA みのり、米卸売業者) (2) 県内の若手農業者(農業青年クラブ)と学生が集い、専門分野に分かれて情 報や意見を交換(7/3)。 (3) 姫路市内の先進的な農業経営 5 施設を訪問し、取組状況の見学(12/5)。 第三者継承や大規模施設園芸の事例を学んだ。 (4) 「現代実践農業」では、法人代表や OB など 6 名の農業者から実践事例を聴 講。農福連携、農外からの就農、半農半 X、観光農園等。 (5) 校外学習・実習で篤農家等を訪問し実践事例を聴講(14 回)。 神戸市西区、たつの市、宍粟市、洲本市、淡路市、新温泉町等	1 カリキュラムの充実 2 若手農業者との情報交換会は、 全学年が参加するようにする。	有機農業アカデミ ーの学生は豊富な 人生経験があるの で、養成課程の学 生と交流ができる ようなカリキュラ ムやイベントを考 えること。 経営継承に必要な ことを学べるカリ キュラムの導入を 検討すること。	A
6 就農や指導機関へ就 職した卒業生の動向把 握が不十分	既卒者への フォローア ップ	1 J A 等の指導機関就職者の現状確認及び就農の 意向を把握 2 就農志向者等を対象とする支援の検討 3 カリキュラムに対する意見聴取 【評価指標】 1 現状調査の実施 2 就農志向者のニーズ把握及び支援策を検討 3 アンケート意見のカリキュラムへの反映を検討	1 卒業時に県内 J A 等の指導機関へ就職した既卒者を対象に、調査時点での現状 確認、今後の意向、カリキュラムへの要望等調査を実施した。(収穫祭の同窓会行 事「卒業 10 年目の集い」で実施) 7 名へのヒアリング調査結果は、以下のとおり。 (1) 講義や実習で役立つもの：機械操作や資格取得、先を見通して作業する計 画性、積極性及び自主性、農業の人的ネットワーク、非農家・非農業高校出身 者はゼロから農作業が学べる点 (2) 今後取り入れるべき内容：ローンの活用、県内先進農家への校外学習、 土壌や肥料の講義、土壌医の資格等、AI を活用した農作業。 (3) 寮の改善等：Wi-Fi の整備。 2 意見は、カリキュラムへの反映を検討していく。	1 卒業 10 年目の集いで、現状確 認、カリキュラムへの要望等調査 を実施 2 カリキュラムの充実	特に雇用就農に関 しては、フォロー アップが必要。追 跡アンケート調査 など通じて、情報 共有すること。	A